

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	13-094	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Association of living alone with the presence of undiagnosed diabetes in Japanese men: the role of modifiable risk factors for diabetes: Toranomom Hospital Health Management Center Study 13 (TOPICS 13).</p> <p>日本の男性に未診断の糖尿病患者の存在と一人暮らしの関係：糖尿病における修飾的なリスクファクターの役割:TOPICS 13.</p>		
<b>執筆者</b>		
Heianza Y, Arase Y, Kodama S, Hsieh SD, Tsuji H, Saito K, Shimano H, Hara S, Sone H.		
<b>掲載誌</b>		
Diabet Med. 2013 Nov;30(11):1355-9. doi: 10.1111/dme.12255.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
未診断の糖尿病、男性、一人暮らし、リスクファクター		23756249
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> この研究の目的は、未診断の糖尿病患者と一人暮らしとの関係、これらの関係はどのように修正可能な生活習慣によって減衰することができるかについて明らかにすることである。</p> <p><b>方法：</b> この横断研究は、糖尿病の診断歴のない 6,400 人の日本人男性を対象として実施した。未診断の糖尿病は、空腹時血糖 7.0mmol/l 以上、もしくは HbA1c は 48 mmol/mol (6.5%) とした。修飾要因として BMI、高血圧、高脂血症、飲酒習慣、喫煙、身体活動、野菜摂取、感情的ストレス、抑うつについて検討した。</p> <p><b>結果：</b> 一人暮らしの男性(1,098 名)は、年齢調整モデルにおいて未診断の糖尿病のリスクが高かった(オッズ比 1.45、95%信頼区間(CI) 1.07,1.96、p = 0.018)。生活習慣を調整するとその関連はやや弱まった(オッズ比 1.40、95%CI 1.02,1.91、p = 0.036)。すべての要因について調整すると、一人暮らしの男性と未診断の糖尿病の関連は、弱い有意な関連を認めた(オッズ比 1.38、95%CI 1.003,1.90、p = 0.048)。未診断の糖尿病の存在と一人暮らしの男性の関連は、肥満、喫煙、身体活動すべてが少ない、またはいずれかが少ない場合に強い関連を認めた。</p> <p><b>結論：</b> 未診断の糖尿病と一人暮らしの男性の関連は、修正可能な生活スタイルによって部分的に影響を受けた。一人暮らしの男性で、特に好ましい生活習慣でない場合には未診断の糖尿病になりやすい。このような人々は、糖尿病性高血糖を持っている可能性が高いことから、糖尿病性高血糖の発見のために糖負荷試験を実施する必要がある。</p>		